水辺のなかまたち

～ 旭川の上流域や渓流 ～

▲ **カジカガエル 危 と カジカ 危**

カジカガエルは、鳴き声が鹿の声に似ていることから、河にすむ鹿（河鹿）と名付けられた。カジカは、カジカガエルに姿が似ていたことに由来する。

◀ **ヤマセミ 危**

市北部の河川周辺に生息する。最近はその姿を見ることが少なくなった。

▼ **アカショウビン 危**

赤い羽とくちばしが目立つ。初夏にブナが広がる渓流などで繁殖するため国外からやってくる。

▲ **カワガラス 留**

岩の上にとまり、水中に潜って川虫や小魚をつかまえる。カラスのなかまではない。

▲ **ミソサザイ 留**

小さくて動きが早い。その姿から想像できないほどの大音量でさえずる。

▶ **キセキレイ**

名前のとおり黄色が目立つセキレイ。石の上などでしっぽを上下に動かしながら、小さな虫をつかまえる。

▶ **ムカシトンボ 危**

ヤゴは成虫になるまでの約 8 年間を水の中で過ごす。

◀ **カワゲラのなかま**

石の下や落ち葉の中で生活する。きれいな水ほどその種類は多くなる。

◀ **カゲロウのなかま**

幼虫時代を水の中で過ごす水生昆虫。主に付着藻類（そうるい）や落ち葉を食べて成長する。

危 絶滅危惧種　絶滅の危機が増大している種

留 留意種　絶滅のおそれはないが、岡山県として記録しておく必要がある種

外 外来種　人間活動によって外国などから入ってきた種

▲ オオサンショウウオ 危

別名“ハンザキ”。成長すると１m前後になる。中北部の河川に生息するが、その数は少ない。

▲ アマゴ 留

渓流を代表する魚。本来は水温が 20℃以下の冷たい川に生息する。釣りの対象魚として毎年、放流されている。

▶ ヒルゼンバイカモ 危

蒜山地域の水路などに自生する水草。水温が夏でも 20℃以下の場所を好む。食用になる。

▶ タカハヤ

“ドロバエ”とも呼ばれる地味な魚。渓流でよく見られる。

◀ アカザ 危

きれいな水を好む。別名は“チョウカニ”。背ビレと胸ビレに毒を持つ。

▶ スナヤツメ 危

目の後ろに 7 つのエラ穴があり、目が 8 つあるように見えることが名前の由来。

◀ カワシンジュガイ 危

氷河期の生き残りといわれる二枚貝。蒜山の渓流や水路に生息。

◀ アブラボテ 危

カワシンジュガイなどの貝の中に産卵し、卵を敵から守ってもらう。

水辺のなかまたち

～ 旭川の中流域やそのまわりの支流 ～

▲ カワムツ
“ハエ”“ハヤ”などとも呼ばれる。中流から上流に生息。

▲ カマツカ
砂ごと口から水生昆虫などを吸いこみ、エラ穴から砂だけを出す。

▲ カワセミ
水の中にダイブして小魚をとらえる。土の崖に横穴を掘って繁殖する。

◀ オヤニラミ 危
名前の由来は「親がにらみをきかせる」という説がある。別名“ヨツメ”。

▶ ムギツク
オヤニラミの卵の近くに自分の卵を産み、世話をさせる習性がある。別名“クチボソ”。

▼ ドンコ
大きな口と頭が特徴。真庭市の川に広く生息する。水生昆虫や魚を丸呑みする肉食性。

▼ ドジョウ
昔は川や田んぼの水路に普通にいたが、今では少なくなった。

▲ シジミのなかま
砂のある川底に生息。昔は食用としていた。

危 絶滅危惧種　絶滅の危機が増大している種
留 留意種　絶滅のおそれはないが、岡山県として記録しておく必要がある種
外 外来種　人間活動によって外国などから入ってきた種

◀ **アユ**
毎年、真庭の川に放流される。石についたコケを食べる。

▶ **オイカワ**
“シロハエ”“シロハヤ”とも呼ばれ、よく食べられていた。繁殖期に鮮やかな色に変わる。

◀ **ヨシノボリのなかま**
胸の下に吸盤のようなヒレがあり、流れの速いところでも生活できる。

▲ **コオニヤンマ**
うすっぺらな形のヤゴ。６～７月頃にトンボになる。

▲ **ミサゴ** 危
川やダム湖のまわりに生息。上空から勢いよく急降下して、フックのような鋭いかぎ爪で魚を捕える。

◀ **ヒラタドロムシ**
岩にくっついて生活する平べったい虫。

▶ **トビケラのなかま**
砂の粒や枯れ草などで巣を作り水中で生活する。

外来種がふえている？

もともと日本にいる生きものを食べたり、すみかや食べ物を奪うことから、生態系への影響が心配されている。

▲ **ブラックバス** 外
北米原産の肉食魚。食用や釣り用として移入されたが在来魚を食べてしまう。

▲ **ウシガエル** 外
北米原産の大きなカエル。牛のような低い声で鳴く。

▲ **アメリカザリガニ** 外
ウシガエルの餌として、アメリカから日本へ持ち込まれた。

▲ **ヌートリア** 外
南米原産で毛皮用に移入されたが捨てられたり、逃げ出したりして増えた。

里山のなかまたち

～ 田んぼのまわり ～

▼ キキョウ 危

秋の七草。自生地は少なくなった。

▲ウツボグサ

別名“カゴソウ”。乾燥させてお茶にする。

▼ ネジバナ

ねじれながら花をつける。

▲ コオニユリ

人目に付きやすい。根は薬草になる。

▲ トノサマガエル 危

岡山県の南部では激減しているが、真庭市の一部ではまだ普通にみられる。

▼ シュレーゲルアオガエル 留

田んぼに水が入ると泡に包まれた卵を産みにくる。

▲ アマガエル

最もよく見られるカエル。まわりの環境に合わせて体を緑色や茶色に変えることができる。

▼ ヌマガエル

真庭市中南部の水田でよく見られる。

▼ ツチガエル

色合いから、別名“クソガエル”とよばれる。

▲ シマヘビ

シマ模様が見られない個体もいる。攻撃的で、噛まれると痛い。

危 絶滅危惧種　絶滅の危機が増大している種

留 留意種　絶滅のおそれはないが、岡山県として記録しておく必要がある種

外 外来種　人間活動によって外国などから入ってきた種

▲ **アキアカネ**
一般に“アカトンボ”と呼ばれ、秋の田んぼで見ることができる。

◀ **アカハライモリ** 危
お腹には赤と黒の模様がある。
イモリ（井戸を守るの意味）は、田んぼや水路で生活する両生類。ちなみにヤモリ（家を守るの意味）は、家や岩場などに生活する爬虫類。

▲ **ヤマカガシ**
カエルが大好物。有毒。地域によって、青っぽい個体や赤っぽい個体がいる。

▲ **チュウサギ** 危
田植えの頃、カエルなどを探しにやってくる。

▶ **ガムシ** 危
市北部でよく見られる。水陸空で生活できる。

◀ **ミズカマキリ**
水たまりや水路などに生息する。

▶ **タガメ** 危
肉食性の日本最大の水生昆虫。その大きさから亀にちなんで命名されたらしい。姿を見ることは少なくなった。

昔ながらの田んぼと水路

山間に残る棚田

自然のままの水路

整備された田んぼと水路

ほ場整備された田んぼ

コンクリートの水路

里山のなかまたち

～ 雑木林のまわり その① ～

▼ オキナグサ 危

山野草として人気がある。自生地は少ない。

▲ シュンラン

雑木林に自生する野生のラン。花は地味。

▼ センブリ

「千回身震いするほど苦い」と言われる薬草。

▲ カタクリ

別所地区に見事な群生地がある。

▲ サシバ 危

カラスほどの大きさのタカのなかま。田んぼのまわりでカエルやヘビ、昆虫を捕まえる。東南アジアの方から繁殖のため日本に渡ってくる。

▲ キビタキ 留

オスはオレンジ色の体毛が目立つ。この鳥も東南アジアの方から繁殖のため渡ってくる。

▲ オオタカ 危

カラスほどの大きさ。ハトや小鳥を捕まえる。

下がオオタカの親鳥で、上の茶色っぽいのはヒナ（幼鳥）。

▼ ヒヨドリ

「ヒーヨ、ヒーヨ」とせわしなく鳴く。秋になると大群で海を渡って暖かい地方へ移動する。

◀ サンショウクイ 危

中国南部や東南アジアから繁殖のため日本に渡ってくる。

◀ イカル

黒い顔と黄色いくちばしが目立つ。

危 絶滅危惧種　絶滅の危機が増大している種

留 留意種　絶滅のおそれはないが、岡山県として記録しておく必要がある種

外 外来種　人間活動によって外国などから入ってきた種

▶ **モリアオガエル** 危

大きな吸盤は、樹上での生活に役立つ。
ため池や水田のまわりに生える樹木の枝に産卵する。

1 匹のメスにたくさんのオスが群がり、泡でできたソフトボールのような卵を産む。

▼ **カスミサンショウウオ** 危

普段は林の中で暮らし、早春になると産卵のため水路や水たまりに出てくる。卵は透明でバナナのような形。

▼ **樹液に集まる昆虫たち**

生態系って？

里山（雑木林）の生態系ピラミッド

生態系ピラミッドとは：
生きものを「食う・食われる」の関係で示したもの。里山の雑木林は、光合成で有機物をつくりだし、生態系の基盤を支えると同時に、動物たちの生息場所としても重要な役割を果たしている。

どこにいる？

手入れされた
落葉樹の林

マツタケなどが生える
アカマツの林

里山のなかまたち

～ 雑木林のまわり その② ～

▼ **フシグロセンノウ**
薄暗い林にオレンジ色の花が目立つ。

▲**ユキノシタ**
山ぎわや民家の日影で見られる薬草。

▼ **ホタルブクロ**
白いつりがね状の花をつける。

▲ **カキドオシ**
道ばたに生え、葉をもむと香りがする。

▲ **イタチのなかま**
雑木林や田んぼ、民家のまわりで生活し、時に家畜やペットを襲うことがある。最近はチョウセンイタチ（外来種）が増えている。

◀ **アナグマ**
タヌキに似ているが、イタチのなかま。額から鼻にかけて白い線が目立つ。“ムジナ”とも呼ぶ。

▶ **タヌキ**
ずんぐりした体形。イヌのなかま。同じところに糞をする“ため糞”という習性がある。

▲ **ウグイス**
春先から夏にかけて「ホーホケキョ」と盛んにさえずる。

▼ **ソウシチョウ** 外
ペットとして外国から持ち込まれ、市内でも増えつつある。

◀ **キツネ**
昔から人を化かすと言われてる伝説の動物。お稲荷さんとしても有名。

危 絶滅危惧種　絶滅の危機が増大している種
留 留意種　絶滅のおそれはないが、岡山県として記録しておく必要がある種
外 外来種　人間活動によって外国などから入ってきた種

里山のなかまたち

～ 神社のまわり ～

▼ アオバズク 危

夜になると、「ホッホッ、ホッホッ」と 2 音づつ区切って鳴く。クワガタなどの昆虫を好む。

▲ フクロウ 危

昼間はじっとして動かず、夜になってネズミやカエルなどを探す。

▼ フクロウやムササビが隠れる樹洞（木のうろ）

神社の森は、昔から守られてきた何百年も経つ大木が多く、そこにはフクロウやムササビがすみついている。

▲ ムササビ 危

木と木の間を滑空して移動することができる。日中は木の穴に入って眠っている。

秋の七草って？

秋に花の咲く草の中から代表的なものを７種選んだもの。
【万葉集】に収められた山上憶良（やまのうえのおくら）の歌
「秋の野に 咲きたる花を 指折り（およびをり）かき数ふれば 七種（ななくさ）の花」
「萩の花 尾花 葛花 瞿麦（なでしこ）の花 姫部志（をみなへし）また藤袴 朝貌（あさがお）の花」による。

ハギ（萩の花）

ススキ（尾花）

クズ（葛花）

カワラナデシコ（瞿麦）

オミナエシ（姫部志）

フジバカマ（園芸種）（藤袴）危

キキョウ（朝貌の花）危

奥山のなかまたち

～ 中国山地のまわり ～

▼ **トキワイカリソウ**
主に日本海側の林のまわりに生育する。

▲ **ミヤマカタバミ**
日光があたる林の下で白い花を咲かせる。

▼ **ギンリョウソウ**
薄暗い林の中で銀色に輝く植物。

▲ **ミヤマキケマン**
茎に沿って黄色いラッパ状の花をつける。

▲ **タゴガエル** 留
繁殖期には渓流の岩の隙間や石の下で「グゥッ、グゥッ」と繰り返し鳴く。

▶ **ヒキガエル** 危
普段は森で暮らすが、早春にはメスをめぐってオス同士が“ガマ合戦”を行い繁殖する。

◀ **ヒダサンショウウオ** 危
山地森林に生息。渓流の岩の下や伏流に産卵する。

▶ **ハコネサンショウウオ** 危
山地森林に生息。源流部の地下水中に産卵する。

▶ **マムシ**
全国どこにでもいる毒ヘビの代表格。頭は三角形。体には銭型模様がある。

▲ **タカチホヘビ** 危
体全体に虹色の光沢がある。夜行性でめったに見ることはない。

危 絶滅危惧種　絶滅の危機が増大している種
留 留意種　絶滅のおそれはないが、岡山県として記録しておく必要がある種
外 外来種　人間活動によって外国などから入ってきた種

▲ クマタカ 危

市内全域に目撃例はあるが、主な繁殖場所は中国山地の森の中。

◀ ハチクマ 危

名前の通り、ハチ（の幼虫）が好物。初夏から美甘や中和の森林で繁殖する。

◀ オオアカゲラ 危

中国山地にはアオゲラ、アカゲラ、コゲラというキツツキのなかまも生息する。

▲ ハイタカ 危

中国山地や集落の近くでも見るが、県内では繁殖地は見つかっていない。

▲ ニホンジカ

近年、目撃例が増えており、生息数は増加しているようである。

▼ ゴジュウカラ 留

シジュウカラと同じ仲間だが､キツツキのように木を自由に動きまわり虫をとる。

▲ イノシシ

中国山地に広く生息。山間の田んぼでは農作物を荒らす被害が出ている。

▼ ヨタカ 危

夜の森から「キョッキョッキョッ･･･」とくり返し鳴くが、その姿を見ることは少ない。

▲ ニホンザル

神庭の滝の集団生息地は有名。勝山、美甘、湯原の集落にも少数が出没して農作物を荒らすことがある。

どんな森がある？

森は生きもののすみか。四季の移ろいは、ふるさと真庭の原風景でもある。

原生林
（ブナやミズナラの森）

広葉樹林
（コナラやアベマキの森）

針葉樹林
（スギやヒノキの森）

高原のなかまたち

～ 蒜山高原のまわり ～

▲ サクラソウ 危

草原の中を流れる小川のまわりや湿り気のある場所に自生する。鳩ケ原では野焼きをした 1 ケ月後に、ピンクの可愛らしい花を咲かせる。

▲ ヒメシジミ 危

夏ごろに見られる小さなシジミチョウ。地域によっては羽の模様が違う。

▲ ワレモコウ

茎の先につく赤いボンボンは、花でなく萼（がく）。生け花などに利用される。

▲ ユウスゲ

明るい草原にレモンイエローの花を咲かせる。夕方から咲き始め、翌朝にはしぼむ。

▶ ミヤマシジミ

模様や大きさはヒメシジミとよく似るため、区別が難しい。

▲ ササユリ

葉っぱの形は笹に似ている。淡いピンク色の花は甘い香りがする。

▼ フサヒゲルリカミキリ 危

日本固有の昆虫。幼虫はユウスゲを食べる。

▲ ウラギンヒョウモン

明るい草原に生息。幼虫はスミレを食べ、成虫はアザミの花に集まる。

危 絶滅危惧種　絶滅の危機が増大している種

留 留意種　絶滅のおそれはないが、岡山県として記録しておく必要がある種

外 外来種　人間活動によって外国などから入ってきた種

◀ カッコウ 留

名前のとおり「カッコウ、カッコウ」と鳴く。モズなどの巣に卵を産んでヒナを育ててもらう、托卵（たくらん）という習性をもつ。

▶ コムクドリ

繁殖のため東南アジアから飛来する。蒜山のふもとでは、初夏に子育てが観察できる。

▼ タニウツギ

谷沿いによく見られ、田植え時期に花が咲くので“田植え花”ともいう。

▲ ノスリ 危

秋から春先にかけて見られるタカの仲間。岡山県では繁殖場所は見つかっていない。

▼ レンゲツツジ

旧川上村の村の花。有毒。湿原や放牧地のまわりに見られたが、最近は減りつつある。

▲ ノウサギ

唱歌「うさぎ追いし、かの山～♪」からイメージされる親しみのある動物。最近は少なくなったかも。

▼ キジ

オスは濃い緑色が目立つ。繁殖期には「ケーン、ケーン」と鳴く。

▲ ミツガシワ 危

氷河期の生き残りとされる。標高が高く寒い地域の湿原に自生する。

▼ ブッポウソウ 危

かつては木製電柱に穴を掘って繁殖していたが、今ではほとんど見られなくなった。吉備高原には多く見られる。

▼ ハッチョウトンボ 留

500 円玉に収まるくらいの小さなトンボ。日当たりの良い湿原に生息する。

ほかにも…

大山（鳥取県）（だいせん）　皆ケ山（みながせん）　櫃ケ山（ひつがせん）
烏山（鳥取県）（からすがせん）　津黒山（つぐろせん）　朝鍋鷲ヶ山（あさなべわしがせん）

定説はないが、地元の人たちに聞くと、「大山を真似てセンとした」、「標高 800m以上の山をセンとした」、「高い山のうち、何か特徴があるものや信仰の対象になりうる山をセンとした」とか。